

報 医 世 々



目 次

- 巻頭言「未来かなえネット」のセキュリティに思う
気仙医師会副会長・飯塚眼科医院院長 飯 塚 和 彦… 2
- 理事会報告…………… 3
 - 第1回理事会報告…………… 3
 - 第2回理事会報告…………… 5
- 随 想
「死ぬ時は何色？」
地ノ森クリニック 蔵 本 純 一… 7
「大船渡に来て1年が経って」
大船渡病院 岡 野 継 彦… 8
- 医院紹介……………櫻井医院 院長 櫻 井 末 男…10
大船渡市国民健康保険吉浜・綾里診療所
所長 中 館 敏 博…10
- 県立病院各科紹介
岩手県立大船渡病院 血液内科 泉 田 亘…12
- 平成27年度（一社）定時総会開催される……………13
- 新入会員の紹介、退会のお知らせ……………14
- 事務局日記……………15
- 編集後記……………16
- 表紙のことば……………16



第 1 3 4 号
2015. 7 . 25

気 仙 医 師 会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6 - 1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



「未来かなえネット」のセキュリティーに思う

気仙医師会 副会長
飯塚眼科医院 院長

飯 塚 和 彦

日本年金機構が保有している年金情報の一部が、不正アクセスにより外部に流出する事態が発生したことが、この6月上旬に報道された。既に年金を受給している高齢者の中には、自分の個人情報が流出していないか、年金がだまし取られないか、心配している方も沢山おられよう。この事態に対し、国会では野党の追及が続いている。さらに、来年1月導入予定のマイナンバー制度も、その改正案の国会審議が見送られ、影響を受けている。

国政の行う情報管理システムのセキュリティーの如何が、国民に問われる状況にある。マイナンバー制度に託する自己の個人情報の安全が担保されなければ、当該制度に参加したくないと考えるのは至極当然と思われる。

気仙では、医療・介護等の地域連携を推進するための情報ネットワーク「未来かなえネット」を構築すべく、医療機関関係者、介護福祉関係者、2市1町の公共機関等が結集して、議論を深めているところである。ネットワークを構築しても、上述のような状況を受け、多くの患者がネットワークに自己の個人情報を託したくないとされては、ネットワークを作る意義も失われてしまう。

国政にあっては、年金情報が流出した事態に対して、国民が納得しうる的確な対応をお願いしたいものである。また、未来かなえネットについては、そのセキュリティーを十分に考慮したシステム構築と、運用する医療・介護等のスタッフの、セキュリティーに対する意識付けが肝要と思われる。

随 想

死ぬ時は何色？

地ノ森クリニック

蔵 本 純 一

数年前に外科医を引退し今の職場に移ってから、主に透析医療と高齢者医療に携わるようになった。当法人はいくつもの介護施設を抱えているために、そちらのお世話も頼まれて高齢者介護の現場にも少なからず関わるようになったのだが、当時少し違和感を覚えたことがあった。それは介護現場に「看取る」という意識があまりみられず、「何かあったら病院送り」と決めているようなところがあったからだ。地方での医療現場の疲弊が表面化してきた時期で、介護の現場でも積極的に「看取り」をするようにと、国の施策も変わってきた頃だった。そこで私は嘱託医を頼まれていた特別養護老人ホームで「看取り」の勉強会をしましょう、と提案してみた。看護師・介護士・ケースワーカーなど、複数の職種に集ってもらい、テーマを決めて月に1回1時間半程度の勉強会をやってみた。最初の1・2回は私が医師の立場から「看取り」をする際の主に医学的面での話題でやってみたのだが、「講義」的なものになってしまい、どうも集まった人たちの反応がいまいちだった。そこでその介護施設のまとめ役をしていた方に、次回のテーマはキミが決めて会を進めてみて下さいとお願いしてみた。

彼も結構考えたようで、いくつかの本も見て決めたのだろう、当日持ち出してきたテーマは「死についてイメージする色は何色ですか？」というものだった。会の冒頭「今日はこのテーマで話し合いましょう」と言われ、正直なところ「そんな漠然としたテーマでは…」と内心思ったのだが、そうではなかった。

その会に出席した人たちは年齢もまちまちで、20代の若い人から私のように60代の者までいて、順にイメージした色とその理由を話し始めたのだが、若い人はだいたい「黒」「灰色」などで、年配の人の中には「紫」や「ブルー」、をイメージする人もいたように思う。

それを聞いていて感じたことは、介護する側に死を忌み嫌い、避けよう、遠ざけようとする意識が根強くあるのだなあ、ということだった。幸い私の発言する順番が最後で、それまで皆さんの話を聞き考える余裕があったため、私の番が来る頃までには自分が死ぬ時はこの色で死にたいという考えは決まっていた、こういう話しをした。

今まで皆さんの話を聞いていて、これは「死のイメージ」というより「私が死ぬ時の希望」かもしれませんが、自分が死ぬ時には「真っ白」になりたいと思いました。やりたいことをやり尽くし、自分の人生に後悔することなく死ねたとすれば、それは「白」ではないかと思ったからです。ここに入所しているお年寄りにとって、ここは「終の棲家」です。年寄りになれば死はいつも「隣り合わせ」のものですから、その年寄りをお世話する側が「死」を避けたい・近づきたくないと思って介護しているのは、何か違うような気がするのですが、どうでしょうか？ 実際、患者さんを多く診ていると、死にたくないと思っている老人はたくさんいて、その最大の理由は「死に対する恐怖感」だと私は思います。しかし皆さん、この施設でもこれから「看取り」を経験するようになればなるほど、お年寄りが死ぬ時は安らかで苦しまないもの、ということが分かるようになると思いますよ、と。

この勉強会はその後間もなく途絶えてしまったが、それからこの施設では「看取り」をするお年寄りが徐々に増えてきて、最近ではほとんどの方が病院のお世話になることなく施設内で看取られて家族のもとへ帰っていくようになった。介護に携わる職員も、施設内での「看取り」を自分たちの仕事の内と捉えて、意欲を持って取り組んでくれているように感じている。

「大船渡に来て1年が経って」

岩手県立大船渡病院

岡 野 継 彦

6月1日鳥羽先生から原稿依頼の電話をいただきました。昨年6月に大船渡病院に来て1年が経ちましたがそれまでのことを少し書いてみます。

私は中学2年まで大船渡で過ごしたあと親に仙台まで行かせてもらいましたが、大学は国立は無理で岩手医大に入りました。

大学2年のときに父が亡くなりました。葬儀のときには気仙医師会の先生方にお世話になりありがとうございました。

卒業後は県立中央病院で2年間の初期研修を行ったあと岩手医大第一内科に入局しました。

入局後しばらくして個人的な事情で半年間休職しました。さらにその後も人間関係や仕事の面での問題が続きました。大学院でしたので学位は取らせてもらえましたが、消化器内科としての臨床能力はなかなか身に付かず小規模の関連病院に長い間出張する様になりました。この頃は将来に強い不安がありました。やがて病気になり10ヵ月休職しました。

一時は仕事の出来ない状態でしたが、少しずつ回復して幸いにも以前に1年間お世話になった軽米病院から誘いがあり復職することが出来ました。

それから10年近く軽米にいました。その間には3年目には母が岩手医大で股関節の手術を受けました。大船渡で一人で生活することが難しくなり軽米で一緒に暮らすことになりました。7年目には震災で家を失いました。翌年に帰ることを諦め土地を手放しました。

その後軽米でいつまでもお世話になる訳にも行かずとりあえず、盛岡か仙台に戻ることを考え休みの日に出掛けてみたりしましたが決心がつきませんでした。

母は、また大船渡に戻りたいという気持ちがあった様でした。私自身は独身であり仕事が出来た訳でもないので何処に行っても大したことがないだろうと考えていました。多少複雑な気持ちでしたが、軽米病院の院長を通して医局に大船渡病院への転勤の希望を出しました。半年後希望が通りました。

大船渡に来てから難しい内容のことは若い先生方にお願いしたり、教えてもらったりしています。忙しいときや疲れたときにも仕事を引き受けてもらいありがたいです。

最後になりましたが、今後とも御指導をよろしくお願い申し上げます。

医 院 紹 介

櫻井医院 院長

櫻 井 末 男

櫻井医院

住田町上有住八日町

内科・外科

Roots

宮城県『桶谷』から岩手に入り、初代寿仙医師は高田の長部で開業。

キシタン弾圧から逃れて有住に移る。二代清庵、三代良庵、四代道謙、五代里見、六代弘、七代末男、八代滋、と続き滋の長男が医大医学部在学中、初代寿仙の入寂は寛政二年の記録があるので四百年近い歴史がある。『Roots』の詳細は岩手県医師会史に記されている。



Staff

医師二名、歯科医一名、看護師三名、事務その他二名。施設は昭和32年建築老屋、それに過日の震災で約半分が被災、その修理が未完のままである。敷地600坪の中に13棟の老屋が散在し、その中に250年前に建てた土台無しの茅葺き屋根の診療所もそのまま遺されています。

種市、綾里町立病院内科、医大瀬田外科、仙台桂外科、盛岡日赤産婦人科と歩いた老医も日医から銀盃を頂き90歳の総合医を気取っています。

月1回『サクランボ会』と称し在宅往診患者の情報交換会を開き町保健福祉課、社会福祉協議会の職員、保健師、ケアマネージャー、ヘルパー、医院職員の会をもっている。



大船渡市国民健康保険吉浜・綾里診療所 所長

中 舘 敏 博

平成23年3月の東日本大震災から早4年、吉浜診療所の周囲では現在も復旧工事や三陸縦貫道路の建設工事が進行中です。5年前、当診療所へ着任した頃は、眼下の吉浜湾の波音が、耳を澄ませば聞こえていたのですから、全く様変わりしたものです。



吉浜診療所は三陸鉄道吉浜駅の隣の、こじんまりとした診療所です（写真1）。



写真 1

やや高台に位置しているため、東日本大震災の直接的被害は免れ、震災の2日後から何とか診療を再開できました。昨今は地球温暖化が進み、今年も季節外れの暑い日が続きましたが、あの当時は雪がちらつくなど非常に寒く、停電で暖房も全くなく、診療もやっとの状態でした。あまりの寒さのためセーターや外套を着込んでその上に白衣を着て診療にあたりました。最初は受診する患者さんも少なかったのですが、ラジオその他で当診療所が開いていることが周知されてきたせいか、患者さんの数は次第に増えていきました。薬の在庫が比較的多めにあったため、当初は2週間の投薬制限をしたものの、薬切れは起こさずにすみ、ほっとしました。震災中、印象に残った疾患は熱傷でした。明かり取りのためのろうそくによるものでしたが、普段は湯たんぽによる低温熱傷が多いのとは対照的でした。それと、他院へ通院中でしたが通院できなくなり、薬が無くなったのほしいという患者さん達でした。そのうち、停電も回復し、状況が落ち着いてきますと、吉浜は被害が比較的小なかったこともあって、他の町村・地区から親族を頼って避難して来た人達が受診するようになりました。復旧・復興工事が始まりますと、地区の患者さん達に加え、工事関係者さんが時折受診するようになりました。

あの震災の記憶が次第に遠ざかりつつあるのを感じる今日この頃です。

一日のうち半日は綾里診療所で診療しています。大震災当日の午後は綾里診療所におりました。私は運よく津波の難を免れましたが、ほんのちょっと巡りあわせが変わっていれば、私も……と、今でも折りにつけ思います。

当診療所は新築後、間もなかったのですが、大震災で建物はかなり破損しました。その修繕もすでに終わり、以前の開放的な雰囲気を取り戻しております（写真2）。

吉浜・綾里両診療所の患者さんは高齢者がほとんどです。体力や通院手段の関係で診療所に通院するのがやっと、という患者さんも多くみられます。なるべく在宅で、と考えてはおりますが、急に病状が悪化し救急のお世話になることも多々あるかと思うので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



写真 2

県立病院各科紹介

岩手県立大船渡病院 血液内科

泉 田 亘

気仙医師会の皆様におかれましては、平素より大変お世話になっております。私は大船渡病院血液内科と国保陸前高田市二又診療所兼務させていただいておりますが、常日頃より気仙医師会の皆様に並々ならぬ御尽力・御配慮いただき、この場をお借りして誠に大変感謝申し上げる次第です。

私は平成23年4月11日から県立宮古病院より赴任し、入院診療を開始しました。現在外来スタッフは常勤が1名、看護師1名、医療クラークが2名で診療にあたっています。外来診療は月曜日と水曜日は岩手医大血液腫瘍内科からの応援医師が、火曜と木曜日は私が診療を行っております。入院診療は私が二又診療所にいる時間帯（月・水曜の午前から夕方近く・金曜の午前）のみ応援医師がそれ以外は一人で診療させていただいております。

県内沿岸の血液内科常勤医師は私のみで、患者さんは北は宮古市から南は宮城県気仙沼市から来られます。平成26年度当科外来受診の延べ人数は2,706名（前年度より283名減少）で、入院の延べ人数は149名（前年度より19名増加）でした。

入院の内訳は、悪性リンパ腫、急性白血病、多発性骨髄腫の順で、造血器悪性腫瘍が90%以上を占めています。

特に、成人T細胞性白血病・リンパ腫を含め、悪性リンパ腫の患者さんが半数以上を占めます。全身に病変が及ぶ為、各診療科の協力を得ながら化学療法や放射線療法を行っております。また、外来での治療が可能になった段階で、外来化学療法室を利用した外来治療へ移行しています。

病棟には現在、常時20名前後の患者さんが入院されています。5階西病棟には3室の無菌室を備えており必要時は無菌管理の下、加療行っております。

60歳以下で自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法や白血病等への同種造血幹細胞移植が必要と考えられる患者さんに対しては、岩手医大附属病院や県立中央病院と連携をとりながら治療をすすめております。

当科が扱う病気の特性上、長い治療期間とその後のフォローアップが必要になります。患者さんと接する中で課題をひとつひとつ克服し、患者さんがより良い治療を選択できるように心がけております。

一方、一段と高齢化も進んでおり遠方より通院される患者さんの中には通院継続が難しい方もいらっしゃいます。御紹介元へのサポートフォローアップをお願いすることも今後増加すると予想しております。

最後に、医師会の皆様と連携を深め、地域の方々により良い医療を提供して参りたいと思いますので、今後とも御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い致します。



「平成27年度一般社団法人気仙医師会定時総会」開催される

◆開催年月日：平成27年 5 月27日（水）午後 6 時30分

◆開催場所：大船渡プラザホテル

標記総会が開催された。会員数61名中、委任状を含め、40名が出席

定刻に開催、1）会長挨拶、2）議案第1号平成26年度事業報告書、第2号議案平成26年度収支計算書、並びに平成27年度事業計画書（案）、平成27年度収支予算書（案）が上程され何れも原案とおり全員挙手で議決された。3）また、平成25年4月に一般社団法人となった気仙医師会の公益目的支出計画についても報告があった。

総会終了後は、新入会会員を囲んでの歓迎懇親会が開催され盛会裏に終了した。



みんなの いわて を
医 協
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料
等々・保険事業・医療廃棄物処理事業（収集から
各種報告書作成まで）・福利厚生事業・労働保険
事務代行業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX.019-626-3883

URL_ <http://www.ginga.or.jp/isikyo>

E-mail_ isikyo@rose.ocn.ne.jp

 **いわて医師協同組合**
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

新入会員の紹介

小野寺 美 緒 先生

入会月日 平成27年 4 月 1 日
生年月日 昭和53年 8 月22日
出身校 岩手医科大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

森 岡 英 美 先生（研修医）

入会月日 平成27年 4 月 1 日
生年月日 平成 1 年 7 月 5 日
出身校 岩手医科大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

岡 田 有 加 先生（研修医）

入会月日 平成27年 4 月 8 日
生年月日 平成 1 年10月26日
出身校 山形大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

豊 島 浩 志 先生（研修医）

入会月日 平成27年 4 月 8 日
生年月日 平成 1 年 4 月20日
出身校 岩手医科大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

佐々木 登希夫 先生（研修医）

入会月日 平成27年 5 月20日
生年月日 平成 2 年 6 月16日
出身校 岩手医科大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

松 浦 祐 樹 先生（研修医）

入会月日 平成27年 5 月20日
生年月日 平成 2 年 5 月12日
出身校 岩手医科大学医学部
勤務地 県立大船渡病院

会員の退会

田 口 裕 哉 先生

（岩手医科大学附属病院へ）

退会年月日（平成27年 3 月18日）

松 本 昌 泰 先生

（岩手医科大学附属病院へ）

退会年月日（平成27年 3 月18日）

千 葉 洋 平 先生

（岩手医科大学附属病院へ）

退会年月日（平成27年 3 月18日）

千 葉 真 士 先生

（岩手医科大学附属病院へ）

退会年月日（平成27年 3 月18日）